



SEAMAIL

Newsletter from Software Engineers Association

Volume 10, Number **4-5-6-7** November, 1996

**Proceedings
of the
International Symposium on
Future Software Technology
(ISFST-96)**

October 9 - 11, 1996

Northwest University
Xi'an, China

Sponsored by
Software Engineers Association
and
The United Nations University/
International Institute for Software Technology



ソフトウェア技術者協会

Software Engineers Association

ソフトウェア技術者協会(SEA)は、ソフトウェアハウス、コンピュータメーカ、計算センタ、エンドユーザ、大学、研究所など、それぞれ異なる環境に置かれているソフトウェア技術者または研究者が、そうした社会組織の壁を越えて、各自の経験や技術を自由に交流しあうための「場」として、1985年12月に設立されました。

その主な活動は、機関誌SEAMAILの発行、支部および研究分科会の運営、セミナー/ワークショップ/シンポジウムなどのイベントの開催、および内外の関係諸団体との交流です。発足当初約200人にすぎなかった会員数もその後飛躍的に増加し、現在、北は北海道から南は沖縄まで、700余名を越えるメンバーを擁するにいたりました。法人賛助会員も30数社ちかくを数えます。支部は、東京以外に、関西、横浜、長野、名古屋、九州、広島、東北の各地区で設立されており、その他の地域でも設立準備をしています。分科会は、東京、関西、名古屋で、それぞれいくつかが活動しており、その他の支部でも、月例会やフォーラムが定期的に開催されています。

「現在のソフトウェア界における最大の課題は、技術移転の促進である」といわれています。これまでわが国には、そのための適切な社会的メカニズムが欠けていたように思われます。SEAは、そうした欠落を補うべく、これからますます活発な活動を展開して行きたいと考えています。いままで日本にはなかったこの新しいプロフェッショナル・ソサイエティの発展のために、ぜひとも、あなたのお力を貸してください。

代表幹事： 山崎利治

常任幹事： 大場充 熊谷章 坂本啓司 中野秀男 深瀬弘恭

幹事： 青山幹雄 荒木啓二郎 市川寛 伊藤昌夫 菊地俊彰 君島浩 窪田芳夫 酒匂寛 塩谷和範
篠崎直二郎 杉田義明 高橋光裕 武田淳男 田中一夫 玉井哲雄 中來田秀樹 中谷多哉子
野中哲 野村行憲 野呂昌満 端山毅 平尾一浩 藤野誠治 二木厚吉 堀江進 松原友夫

事務局長： 岸田孝一

会計監事： 辻淳二 吉村成弘

分科会世話人 環境分科会(SIGENV)：塩谷和範 田中慎一郎 渡邊雄一
教育分科会(SIGEDU)：君島浩 篠崎直二郎 杉田義明 中園順三
ネットワーク分科会(SIGNET)：小林俊明 人見庸 松本理恵
プロセス分科会(SEA-SPIN)：青山幹雄 伊藤昌夫 坂本啓司 高橋光裕 田中一夫 増井和也

支部世話人 関西支部：白井義美 中野秀男 盛田政敏 横山博司
横浜支部：野中哲 藤野晃延 北條正顕
長野支部：市川寛 小林俊明 佐藤千明
名古屋支部：筏井美枝子 角谷裕司 外山徹 野呂昌満
九州支部：武田淳男 平尾一浩
広島支部：大場充 佐藤康臣 谷純一郎
東北支部：菊地俊彰 野村行憲 和田勇

賛助会員会社：アイシーエス PFU SRA アスキー
オムロンソフトウェア カシオ計算機 キヤノン新川崎事業所
さくらケーシーエス サンビルド印刷 ジューエムエーシステムズ ジャストシステム
ダイキン工業 ムラタシステム 安川電機 構造計画研究所
三菱電機セミコンダクタソフトウェア 新日鉄情報通信システム
新日本製鉄エレクトロニクス研究所 池上通信機 中央システム
東芝アドバンスシステム 東電ソフトウェア 東北コンピュータ・サービス
SRA東北 日本NCD 日本情報システムサービス
日本電気ソフトウェア 富士通 富士通エフ・アイ・ピー
オムロン SRA中国 富士電機 プラザー工業 (以上33社)

SEAMAIL Vol. 10, No. 4-7 1996年11月11日発行

編集人 岸田孝一

発行人 ソフトウェア技術者協会(SEA)

〒160 東京都新宿区四谷3-12 丸正ビル5F

T: 03-3356-1077 F: 03-3356-1072 sea@@sea.or.jp

印刷所 サンビルド印刷株式会社 〒162 東京都新宿区築地町8番地

定価 2,000円 (禁無断転載)

編集部から

☆

夏から秋にかけて、(1) MCC, CMU/SEI, および JIMT (Univ of Texas) とのジョイントによるアメリカでの Forum & Workshop, そして (2) 国連大学と共催の中国での国際シンポジウム (ISFST'96) と 2 つの大きな国際イベントが重なり、事務局兼編集部はすっかり忙殺されていました。

☆☆

両イベントとも成功裡に終わりましたが、とりあえずまとまっている中国・西安での ISFST'96 の Proceedings を特集号としてお届けします。

☆☆☆

SEA では、1987 年以降 3 回開催した日中シンポジウムの後を受けて、1991 年から、単に 2 ヶ国だけでなくより国際的に開かれた形の International CASE Symposium を、北京 (91 年)、烏魯木齊 (92 年)、泰安 (93 年)、昆明 (94 年)、長沙 (95 年) と 5 年間にわたって開催してきました (1994 年からは UNU/IIST - 国連大学国際ソフトウェア研究所との共催)。

☆☆☆☆

今年は、新しい世紀に向かっての未来 (Future Software Technology) を討論しようという再度のモデルチェンジを試みたわけです。参加者は、やはり中国、日本が中心ですが、韓国、マカオ、オーストラリア、パキスタンのアジア太平洋諸国の他に、アメリカ、イギリス、さらには東欧ポーランドからも論文が寄せられました。

☆☆☆☆☆

夏の PC ミーティングで、共催団体である UNU/IIST 所長の Dines Bjorner 博士いわく: "世の中の国際会議がややもすれば既成のアカデミズム流の形式化にながれて行く傾向がある中で、SEA が主催してきた一連の会議は日中両国の研究者・技術者の親密な結び付きをベースに、インフォーマルな人間的交流の場として成功をおさめてきている。今後もこのユニークな特徴を伸ばして行くように心がけよう!"

みなさんも来年はぜひ御参加下さい。

☆☆☆☆☆☆

今年の参加者の方々の印象記は、また号をあらためて。

☆☆☆☆☆☆☆